

R6 後期学校評価

ア 児童の 状況	自己評価Aと学校関係者評価の評価区分	きわめて良好	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好	4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
		おおむね良好	3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分	2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
		努力を要する	1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 自主的・自律的な生活

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るくあいさつをし、規律ある落ち着いた生活をしながら、主体性や責任感を育もうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・あいさつについては縦割り活動が効果的に行われており、中学校まで取組がつながっている。更に小中の連携を強めて段階的にレベルアップを図っていくようにしたい。 ・あいさつは社会人になっても大事なことで、更に習慣付けを図る取り組みをし、将来につながるあいさつ、校外におけるあいさつができる児童の育成をお願いしたい。 ・名前を呼んでもなかなか返事をしない児童やあいさつを返さない児童、友達を呼び捨てにする児童がみられる。職員が積極的な姿勢を示し、改善を図ってほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	・あいさつ運動に関しては、いろいろ取組みがなされていて素晴らしいので継続してほしい。結果としてあいさつを大事にしようとする意識が身に付いてきていることは進歩と考える。 ・あいさつ運動の時と同じあいさつを日常的にできるとよい。また、保護者や地域と連携して家庭や地域で自然にあいさつを交わせる子どもを育ててほしい。言葉遣いと共にあいさつは小学生のうちにきちんと身に付けさせてほしい。 ・150周年記念集会において大勢の前で演技や発表、合唱を披露する機会があり自信に繋がったと思われる。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】 ◆運営委員によるあいさつの呼びかけや月1回の学級ごとのあいさつ運動、小中合同でのあいさつ運動等を通して、あいさつを大事にしようとする意識が身に付いている。今後は、「いつでもどこでも誰にでも」元気にあいさつできるように、あいさつの習慣付けを図る取り組みをしていきたい。 ◆場に応じた正しい言葉遣いができるように、場面を捉えて迅速に対応していきたい。また、児童の温かい言葉掛けなどを称揚し、学校全T内で日常化されるようにしていく。 ◆児童数減少により、従来の委員会活動、正課クラブの活動の継続が困難になってきたため、委員会を統合したりクラブ活動をローテーション化したりするようにした。その結果(1つの委員会・クラブあたりの所属人数が増え)話し合い活動が活発になったり、活動の幅が広がったりした。今後は更に児童の自主的・自律的な活動を促せるように個々の役割に専門性をもたせるなどしていきたい。			
	【後期→(次年度)】 ◆運営委員によるあいさつの呼びかけのほか、学級ごとの朝のあいさつ運動やあいさつリーダーデーの実施、小中合同でのあいさつ運動、町内や縦割り班ごとのあいさつ運動等、グループややり方を変えながら、いろいろな方法であいさつ運動に取り組み、あいさつを大事にしようとする意識が身に付いてきている。今後は、「いつでもどこでも誰にでも」に加え、「一人でも」元気にあいさつできるように、あいさつの習慣付けを図る取り組みを続けていきたい。 ◆場に応じた正しい言葉遣いができるように、引き続き場面を捉えて迅速に対応していきたい。また、各学級での課題を基に運営委員会で『成章子』等を提案し、優しく思いやりのある言葉遣いを推奨していきたい。 ◆児童の自主的・自律的な活動を促せるように、各委員会の適正人数を考え、個々が自分の役割に責任をもって取り組めるようにしたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 基本的な生活習慣	(1) 元氣なあいさつと場に応じた言葉遣い	「あいさつ運動」(あいさつ三カ条+いつでも、どこでも、誰にでも、覆面調査員の活用) 「場に応じた正しい言葉遣い」に関する日 常指導(学級指導と集会活動での呼びかけ)	3	3
2 集団生活・集団活動	(2) 集団の一員としての自覚	自主性・主体性を促す委員会や係活動 活気ある集会活動 児童数減少に伴う委員会の再編	3	3

評価点数について

4=よい がんばっている あてはまる 楽しい	3=だいたいよい ややあてはまる まあまあ楽しい
2=やや不十分 あまりあてはまらない あまり楽しくない	1=不十分 がんばり不足 まったくあてはまらない 楽しくない 0=わからない

【評価指標1】基本的な生活習慣

【評価指標2】集団生活・集団活動

【1・2のデータ】 ※上段:前期 下段:後期 表中の数値は%(端数処理の関係で100%丁度にならない場合があります)

	質問事項	4	3	2	1	0
児童	【評価指標1】 学校、おうちや地いきで、進んで元氣なあいさつをしたり、返事をしたり、相手にあった言葉づかいをしたりできましたか。	54	36	7	2	2
		53	33	7	3	3
	【評価指標2】 たてわりはんそうじや委員会活動、学級のかかりでは、せきにんをもって自分の仕事ことができましたか。	71	27	2	0	0
		67	25	8	0	0

	質問事項	4	3	2	1	0
保護者	【評価指標1】 児童会が中心となって行っているあいさつ運動や学校でのあいさつ・返事の指導は、お子さんの家庭・地域でのあいさつ、場に応じた返事や言葉遣いにつながっていると思いますか。	50	48	0	0	2
		42	51	4	0	2
	【評価指標2】 お子さんは、学校行事や縦割り班活動、異学年との交流、学級活動や係・委員会活動等によって、責任感や主体性が育ってきていると思いますか。	37	54	4	2	2
		49	49	2	0	0

	質問事項	4	3	2	1	0
職員	【評価指標1】 「あいさつ運動」(あいさつ三カ条+いつでも、どこでも、誰にでも、覆面調査員の活用) 「場に応じた正しい言葉遣い」に関する日 常指導(学級指導と集会活動での呼びかけ)	8	69	23	0	0
		8	62	31	0	0
	【評価指標2】 自主性・主体性を促す委員会や係活動 活気ある集会活動 児童数減少に伴う委員会の再編	8	85	8	0	0
		8	85	8	0	0

ア 児童の状況

Ⅱ 思いやりの心・たくましい心

学校の状況		自己評価A		学校関係者評価		学校関係者評価委員のコメント	
互いに認め合い高め合いながら、夢に向かって努力する豊かな人間性を育もうとしている。	前期	おおむね 良好	おおむね 良好			・応援ボードや花ボラのメッセージカードのプレゼントは地域の方々に元気を与え、子どもたちの心を耕す素晴らしい活動であるので、今後も続けてほしい。 ・児童のアンケートの結果からチャレンジ精神が育まれていることも見て取れる。今後も、目標に向かってあきらめずに頑張る経験をたくさんさせてほしい。	
	年度	良好	良好			・地域との様々な交流は、お互いに心が和むものである。労災病院でのクリスマスコンサートは素晴らしい取組なので、感染症の状況を見ながら続けてほしい。福祉施設におけるボランティア活動なども充実させて子どもたちの心の成長につなげてほしい。 ・積極的に地域と関わりチャレンジしている子供たちを見る機会が多く、思いやりの心が育っていると感じる。 ・目標を決めて努力することは、自主的・自律的な生活につながるので大切にしたい。保護者との連携を継続して今後も取り組んでほしい。	
自己評価の概要と学校の改善策	【前期→年度】						
	◆元気応援ボードのプレゼント活動に今年度も継続して取り組んでいる。今年度は3年生から活動に参加することとし、1学期は3年生・6年生が計6施設にプレゼントした。学年全員で複数の施設を訪問することで、自分たちの訪問を心待ちにしてくれている方がたくさんいることや、自分たちの活動で地域の方を元気づけることができていくことに気付くことができた。つくし苑・ケアハウスほうおうには収穫した枝豆も一緒に届けている。地域の一員として役に立ちたいという思いを今後も育てていきたい。2学期は4年生・5年生が実施する予定。 ◆子どもたちは成章八か条をもとに学期ごとの目標を立て、「学びを深める」「心をみがく」「体をきたえる」「地域と関わる」姿を目指して生活している。学期末には自己の目標や三哲ががんばり賞の振り返りをする中で自己の変容や成長を感じることができるようになっており、校長から授与される三哲ががんばり賞も子どもたちの大きな自信につながっている。職員からは学期末ではなく、もう少し短いスパンで振り返り活動を行いたいという意見があり、2学期からは目標カードの形式を変えることで月ごとに自分の達成状況を確認したり、目標の見直しを行ったりすることができるようになっていく。						
自己評価の概要と学校の改善策	【年度(→次年度)】						
	◆5年ぶりに労災病院でのクリスマスコンサートを実施した。1・4・5年生が参加し、入院患者さんや病院職員のみなさんに元気と笑顔を届ける活動することができた。たくさんの拍手をいただいたことや、嬉しそうに演奏や歌声に耳を傾けている姿を目の当たりにしたことで、自分たちの活動で多くの人の心を明るくすることができると実感することができた。また、福祉弁当に添えるお手紙を書いたり、中学校と一緒にしている花ボランティアのメッセージカードを作成したりしたこと、思いやりの心を育てることにつながっている。事前事後の指導を大切にしながら、継続して取り組んでいきたい。 ◆道徳の時間に学んだ価値について、自分の生活を振り返る時間を大切にしてきている。 ◆子ども達は友達が頑張った事や思いやりのある行動を、帰りの会で「今日のキラッさん」として発表している。これからも、友達のよさを認め合うことを奨励し、助け合う安心できる学級づくりを大事にしていきたい。						

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
3 広く豊かな心と自立心	(3) 思いやりの心の育成	道徳の時間を中心とした道徳教育の推進 地域の方々とふれあい(福祉弁当に添える手紙 クリスマスコンサートの実施 冬の花ボラメッセージ5・6年)	3	4
	(4) 互いを認め合い、自己肯定感を高める活動	学級活動の充実 自己目標の設定と毎月のふりかえり 個人目標の掲示 一人一人の活躍の場やよさを認める学校行事	3	4

【評価指標3】広く豊かな心と自立心

【3のデータ】 ※上段:前期 下段:後期 表中の数値は%(端数処理の関係で100%丁度にならない場合があります)

質問事項		4	3	2	1	0
児童	【評価指標3】 友だちの気持ちを考えて、話したり行動したりできましたか。また、ちがう学年の友だちともなかよく活動できましたか。	57	29	9	2	4
		53	30	13	3	0
	【評価指標3】 道徳の授業では、自分の生活をふり返ったり、友だちと話し合っ自分の考えを深めたりできましたか。	50	39	7	4	0
		58	23	15	2	2
	【評価指標3】 めあてにむかってがんばったり、最後まであきらめずにがんばったりして、チャレンジできましたか。	71	25	4	0	0
		60	25	13	2	0

質問事項		4	3	2	1	0
保護者	なかよし登校や縦割り班清掃、地域の方々と施設との交流、元気応援ボードの贈呈、花ボランティア、保育園児との交流などは、思いやりの心の育成につながっていると思いますか。	54	46	0	0	0
		62	38	0	0	0
	【評価指標3】 お子さんは、学習や生活、スポ少など何かに挑戦したり自分なりに目標を決めて取り組んだりしていると思いますか。	41	52	7	0	0
		49	31	16	4	0

質問事項		4	3	2	1	0
職員	【評価指標3】 道徳の時間を中心とした道徳教育の推進 地域の方々とふれあい(福祉弁当に添える手紙 クリスマスコンサートの実施 冬の花ボラメッセージ5・6年)	8	92	0	0	0
		38	62	0	0	0
	【評価指標3】 学級活動の充実 自己目標の設定と毎月のふりかえり 個人目標の掲示 一人一人の活躍の場やよさを認める学校行事	8	77	15	0	0
		15	85	0	0	0

ア 児童の状況

Ⅲ 基礎学力				
児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
基本的な学習習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組み学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・子どもたちが自ら学習を進めて学び合っている様子を授業参観で見ることができ、授業改善が進んでいることがうかがえる。 ・語彙を増やしたり表現力を身に付けたり、言葉を広げていくための活動を頑張っており、素晴らしい。 ・読書については、アンケート結果からも、図書室の本の活用と読書量が増えるなど、習慣づけられていることが分かり素晴らしい。
	年度	良好	良好	・学力検査の結果を見ても、子どもたちは確実に基礎学力を身に付けていることが分かる。学習態度も4月当初より落ち着いている。先生方の取組の成果と感謝したい。また、児童が他学年の授業を見る機会を設定したことで、自分を知り向上心を醸成することにつながったのではないかと感じる。 ・子どもが読む本は本人の嗜好によって偏りが出てしまうが、「おみくじくくり読書」というユニークな取組により、様々な種類の本を読むことに繋がっている。本を読むという習慣も根付いてきている。素晴らしい取組である。このような手立てを工夫して、児童が実際に本を手に取り、読書に親しむ機会を増やしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(→年度)】 ◆「学び合いカード」を使い、「話し方・聞き方」の基礎的・基本的なことを確認しながら取り組んできて、学び合いにつながるハンドサインや反応ワードが増えてきた。さらに「比べながら聞く」「比べて話す」など付けたい力を意識させながら力を高めていきたい。そして、いろいろな教科で使うことができるように、言葉を広げていくことを大事なことで確認し、取り組んでいきたい。 ◆児童は、学級文庫を活用して昼読書や朝読書の時間にじっくり読書に取り組んでいる。読み聞かせは、昼の時間帯に変えるなど工夫しながら行っている。1学期の「飛び出す図書館司書」の読み聞かせと読書指導は、子どもたちへの興味・関心を高めることにつながり、「読書強調週間」は、図書室の本の活用と読書量の増加につなげることができた。秋の読書強調月間では家庭学習強調週間とも合わせて、「いろいろな種別の本を読む」「家読のすすめ」にも取り組んでいきたい。			
	【年度(→次年度)】 ◆研究部と連携して「授業を見合う会」を実施した。他学年児童の学ぶ様子と自分たちを比べることで、自分たちに必要な力を自覚し、「学び合いカード」を活用して主体的に力を伸ばした。特に、学び合いに必要な「相手に伝わる話し方」や「自分の考えと比べながらしっかり聞いて反応する」力が高まった。また、学習リーダーについても、発達段階に応じたスキルを教師間で共有できた。次年度はそれを基に学習リーダーの育成を図りたい。 ◆力を付けるためのノート指導を継続してきて、自分の課題に見合っためあてを決めて取り組む「家庭学習強調週間」を実施した。また、中学生の家庭学習ノートも借りて行ったノート展では、よさを共有し、参考にすることができた。 ◆2ヶ月間の読書月間におみくじを引いて文種を決め、2～3種類読んだら木にりんごを1個貼るという「おみくじくくり読書」が、充実した読書活動につながり、いろいろな文種の本をたくさん読む事ができた。全校でりんご150個という目標を上回り、家庭での読書にも進んで取り組む姿が見られた。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 学習への取組	(5) 基本的な学習習慣の定着	「学習の約束」の徹底 「学び合いカード」を使った話し方・聞き方の指導 ノート指導 ノート展	3	4
	(6) 基礎学力の定着と向上	単元評価問題の活用 計画的な朝学習・風の子テストの実施 家庭学習の充実 パワーアップタイムの設定	3	3
	(7) 読書活動の充実	昼読書・読み聞かせによる読書習慣の形成 図書室・学級文庫の整備 読書強調月間の設定(じっくり読書運動、りんごの木掲示) 昔語り楽しみ会の実施	4	4

【評価指標4】学習への取組						
【4のデータ】 ※上段:前期 下段:後期 表中の数値は%(端数処理の関係で100%丁度にならない場合があります)						
質問事項		4	3	2	1	0
児童	【評価指標4】 先生は、べんきょうがわかるように教えてくれたと思いますか。	82	14	0	2	2
	【評価指標4】 学校のべんきょう、おうちでのべんきょう、風の子テストのべんきょうをすることで、自分の力がついたと思いますか。	66	23	4	2	5
	【評価指標4】 読書タイムや、読み聞かせ、図書館との先生との学習によって、本にしたしむことができたと思いますか。	77	16	5	0	2
		62	27	8	0	3
質問事項		4	3	2	1	0
保護者	【評価指標4】 お子さんは、授業の内容がよく分かると言っていますか。	28	54	11	0	7
	【評価指標4】 学校では、風の子テスト、毎日の朝学習、家庭学習等を通して、基礎・基本が身に付くように指導していると思いますか。	43	48	4	0	4
	【評価指標4】 読書タイムや読み聞かせ、図書館司書を招いての授業などは、お子さんの読書への関心を高めたり楽しさを味わわせたりする上で役立っていると思いますか。	43	48	2	0	7
		44	44	7	2	2
質問事項		4	3	2	1	0
職員	【評価指標4】 「学習の約束」の徹底 「学び合いカード」を使った話し方・聞き方の指導 ノート指導 ノート展	0	77	23	0	0
	【評価指標4】 単元評価問題の活用 計画的な朝学習・風の子テストの実施 家庭学習の充実 パワーアップタイムの設定	23	77	0	0	0
	【評価指標4】 昼読書・読み聞かせによる読書習慣の形成 図書室・学級文庫の整備 読書強調月間の設定(じっくり読書運動、りんごの木掲示) 昔語り楽しみ会の実施	38	77	0	0	0
		77	23	0	0	0

ア 児童の状況

IV 健康と体力

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
食や健康、体力への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・メディアコントロールは家庭の教育力が不可欠である。アンケート結果から、メディアコントロールをして生活習慣を改善することや、望ましい食習慣を身に付けさせるための子どもや家庭への働きかけの効果がでてきていることがうかがえる。また、子どもたちの会話からも、勉強の後にやるとか、終了時刻をあらかじめ決めるとか、メディアコントロールの意識が浸透していることが分かる。 ・体力づくりには子どもたちが意欲的に取り組んでいることがアンケートから読み取れる。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	・メディアコントロールが今後も大きな課題であるが、全体への指導はもちろん個別の指導に力を入れていく必要を感じている。アンケートから、子供たち自身が、正しい生活習慣が身に付き始めていることを自覚していることが読み取れる。また、保護者も高い評価をしていることも良かった。今後は更に保育園、小学校、中学校との連携を生かして効果を上げることが期待している。 ・体力づくりは継続して運動する習慣を身に付けさせることが大切である。成章の子どもたちの体力的な課題を捉えて、改善に向けての取組を充実させてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(一年度)】 ◆健康的なライフスタイルの形成(特にメディアコントロール)を引き続き課題として取り組んでいきたい。メディアコントロール週間で意識して頑張る児童が増え、掲示物にも興味をもっていた。今後も続けて、児童への意識付けをしていきたい。 ◆給食指導では、あいさつ広場の掲示や放送などで情報を提供することを続け、食への関心を高めていきたい。日々の給食指導では、苦手な食材・メニューにも挑戦できるように、献立の工夫や教師の声がけをしていきたい。 ◆体力づくりでは、業間休みの時間や授業の導入時間を利用して、安全面に配慮しながら遊びや簡単な運動を取り入れることで体力の向上を目指していきたい。			
	【後期(一次年度)】 ◆引き続き、健康的なライフスタイルの形成(特にメディアコントロール)を課題として取り組み、児童への意識付けをすることができた。今後も保健だよりや掲示物等で、児童や保護者へ呼びかけをしていくようにする。また、学級担任を通して保護者へ学校での様子などを伝えて対策を考えていくことも必要になってくると考える。 ◆給食指導では、あいさつ広場の掲示や放送などで情報を提供することを続け、食への関心を高めることができた。今後も続けていきたい。 ◆体力づくりでは、業間休みの遊び中で楽しみながら運動に親しむことができた。今後は、体力テストの結果も踏まえながら、遊びの中や授業の導入時間で準備運動で取り組むなどしていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
5 健康的な生活習慣・食育	(8) 健康的なライフスタイルの形成	生活習慣とメディアに関する実態調査 家庭への啓発(保健だより・給食だより) メディアコントロール週間の実施(メディアコントロールの意識付け) 養護教諭・主任学校栄養士による保健・安全及び食についての授業	3	3
	(9) 望ましい食習慣の形成	食生活アンケートを活用した食育指導 よくかんで食べる意識付け(かみかみ週間) 食育に関する全校掲示(地場産物や和食等の紹介)	3	4
6 体力づくり	(10) 継続的な体力づくり	なわとび運動の実施 新体力テストの分析	3	3

【評価指標5】健康的な生活習慣・食育

【評価指標6】体力づくり

【5・6のデータ】 ※上段:前期 下段:後期 表中の数値は%(端数処理の関係で100%丁度にならない場合があります)

	質問事項	4	3	2	1	0
児童	【評価指標5】 早ね、早おき、朝ごはん、ゲームやメディアのやくそくを守るなど、きそく正しい生活ができたと思いますか。	34	43	14	9	0
		42	32	23	3	0
	【評価指標6】 休み時間のマラソン運動や、スポ少、歩いて登校、歯がきや手洗いをしたことで、体力がついたり健康にすごしたりできたと思いますか	59	30	5	4	2
		57	37	3	3	0

	質問事項	4	3	2	1	0
保護者	【評価指標5】 保健だよりや給食だよりは、お子さんの家庭での健康的な生活習慣(早寝早起き・食事のとり方・メディアコントロールなど)の形成に役立つ情報になっていると思いますか。	37	50	9	0	4
		47	49	4	0	0
	【評価指標6】 全校マラソン、全校なわとび、歯磨き指導、手洗い指導、メディアコントロール週間、給食かみかみ週間、食育の授業などは、お子さんの体力づくりや健康的な生活につながっていると思いますか。	48	52	0	0	0
		60	38	2	0	0

	質問事項	4	3	2	1	0
職員	【評価指標5】 生活習慣とメディアに関する実態調査 家庭への啓発(保健だより・給食だより) メディアコントロール週間の実施(メディアコントロールの意識付け) 養護教諭・主任学校栄養士による保健・安全及び食についての授業	23	69	8	0	0
		23	77	0	0	0
	【評価指標5】 食生活アンケートを活用した食育指導 よくかんで食べる意識付け(かみかみ週間) 食育に関する全校掲示(地場産物や和食等の紹介)	38	62	0	0	0
		46	54	0	0	0
	【評価指標6】 なわとび運動の実施 新体力テストの分析	8	92	0	0	0
		15	69	15	0	0

イ 学校運営の状況

V 安全・安心

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
児童が互いに認め合い、安心して学校生活を送ることができるようにしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・外部の専門機関や地域の方々の協力を得ながら、更に活動を充実させてほしい。 ・未然防止や早期発見に繋げることができたことは、とても良いと思われる。地域や関係機関と連携した安全指導は、役立っているので児童の評価が高い。これからの季節は、熊対策を含めた対応をお願いしたい。 ・少数ではあるが、評価指標7の2～0と考える保護者がいることを、今後の対応に生かしてほしい。
	年度	良好	良好	・水害による避難訓練の実施ができたことはよかった。毎年のように大きな災害が発生している状況であるので、可能性のある災害の訓練を職員や子どもたちが体験できたことは非常に大きい。 ・児童理解について、保護者や職員アンケートの結果が向上していることは、様々な手立てを講じて児童の困り感に迅速に対応するなど、学校の取組が充実している証である。 ・保護者と職員の信頼関係が良く数字に表れている。
自己評価の概要と学校の改善策		【前期(一年度)】 ◆ぬくもりアンケートやいじめアンケート、全児童との面談の実施等により、児童の学習や日常生活の困り感に迅速に対応したり、未然防止や早期発見につなげたりすることができた。今後も児童の様子に目配り心配りを続けていきたい。 ◆あらゆる場面・状況を考慮した安全指導を今後も続けていきたい。そのため、場面や目的に応じた避難訓練や集会での具体的な指導、生徒指導だよりによる児童や保護者への周知等を行ってきたい。 ◆わらべ見守り隊、子ども110番の家(7月更新)は、コロナ禍により中断していた顔合わせ会を再開するなどして、より学校との結びつきを強めることでその機能を強化していきたい。 【後期→(次年度)】 ◆ぬくもりアンケートやいじめアンケート、全児童との面談の実施等により児童の学習や日常生活の困り感に迅速に対応することができた。また、児童の問題行動や困り感に対して、学級担任と管理職を含めたチーム対応で、早期発見・早期解決につなげることができた。 ◆11月に水害対応の避難訓練を実施した。本校の実地状況や昨今の被害情報を児童も十分理解していたため、真剣に取り組む様子が見られた。今後も、場面や目的に応じた避難訓練や集会での具体的な指導、生徒指導だよりによる児童や保護者への周知等を行ってきたい。 ◆安全な登下校、放課後の生活における地域の協力に感謝している。中断していたわらべ見守り隊発足式、反省会及び児童との交流を再開する。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
7 児童理解と組織的な生徒指導	(11) 児童理解と個に応じた支援	児童との面談の実施 ぬくもりカード・いじめアンケートの実施 保護者との面談、連携児童を語る会(や生徒指導研修会)	3	4
8 安全教育と安全管理	(12) 地域や関係機関と連携した安全指導	交通安全教室、避難訓練(水害・火災)の実施 生徒指導だよりの定期的な発行 登校時における安全指導 わらべ見守り隊活動 情報モラルの指導 連絡メールを活用した安全に関わる連絡	3	4

【評価指標7】児童理解と組織的な生徒指導

【評価指標8】安全教育と安全管理

【7・8のデータ】 ※上段:前期 下段:後期 表中の数値は%(端数処理の関係で100%丁度にならない場合があります)

質問事項		4	3	2	1	0
児童	【評価指標7】 ぬくもりカード、いじめアンケート、先生との相談などによって、あんしんして学校で過ごすことができたと思いますか。	75	16	7	0	2
		57	37	3	3	0
	【評価指標8】 交通安全教室、ひなん訓練、わらべ見まもり隊の活動などは自分のいのちを守るのに役立ったと思いますか。	86	14	0	0	0
		82	15	2	2	0

質問事項		4	3	2	1	0
保護者	【評価指標7】 電話や連絡帳での連絡、PTA授業参観、個人面談などは、お子さんの学校での様子を知ったり、学校と家庭が連携したりすることにつながっていますか。	48	41	4	2	5
		67	29	4	0	0
	【評価指標8】 交通安全教室、避難訓練、登校指導、わらべ見守り隊活動、生徒指導だよりの発行は、お子さんの安全や命を守るのに役立っていると思いますか。	52	46	2	0	0
		76	24	0	0	0
	【評価指標7】 先生方はお子さんの困りごとや悩みに耳を傾け、すぐ対応してくれたり複数で関わってくれたりしていると思いますか。	50	35	4	2	9
		58	29	4	0	9

質問事項		4	3	2	1	0
職員	【評価指標7】 児童との面談の実施 ぬくもりカード・いじめアンケートの実施 保護者との面談、連携 児童を語る会(や生徒指導研修会)	31	69	0	0	0
		56	46	0	0	0
	【評価指標8】 交通安全教室、避難訓練(水害・火災)の実施 生徒指導だよりの定期的な発行 登校時における安全指導 わらべ見守り隊活動 情報モラルの指導 連絡メールを活用した安全に関わる連絡	23	77	0	0	0
		46	54	0	0	0

イ 学校運営の状況

VI 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校課題を明確にし、特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・評価指標10のアンケートが児童・保護者・職員とも大変良好な結果である。ふるさと教育が充実していることがデータから分かる。 ・子どもたちが主体的に授業に向かっていく姿や学習ルールが定着してきている様子が見られる。組織的に指導を進めている成果と捉える。 ・今後も小中連携して、地域のためにできることを頑張ろうとする姿勢を大切に育ててほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	・教職員の研修が充実していることが子どもたちの学力向上に繋がっていると思われる。 ・ふるさとキャリア教育の体験活動などの充実ぶりも素晴らしい。職員の多くが、この地域を理解し、関わってくれることに感謝したい。 ・採用試験の倍率低下と若い先生がどんどん増えていく状況が気がかりである。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期(一年度)】 ◆1学期は、研究説明と提案授業に力を入れてきた。2学期は、大きな授業公開(市教研・全県大会)の研究を通して、研究の内容を深めていきたいと考えている。また、日々の授業実践に活用できるような実技研修やOJTを引き続き提案したい。 ◆担任の先生方の事前指導もあり、小中合同クレーンアップや町内奉仕活動などへの参加率が高かった。先生方自身が活動の意義を理解し、子どもたちの頑張りを価値付けていくことが大切だと感じた。小中連携して活動していることもこの地区の強みである。今後も地域のひとと関わりながら、地域のために活動することができる子どもたちを育てていきたい。 ◆個人面談や機会あるごとに、各自の取組が学校教育目標具現化のためのどの部分を担っているのか確認することで、職員の参画意識を引き続き高めていきたい。会議等で示される事業計画等をしっかりと周知させるため、会議の持ち方や“文書、声、掲示”での連絡を工夫していく。			
	【後期→(次年度)】 ◆2学期は、授業公開を通して研究の実践(各教科)を深めることができた。次年度に向けて、今年の研究の成果をまとめ、方向性を定めていきたい。また、後期も実技研修やOJTを実施することができた。今後も日々の授業実践に活用できるような研修を提案したい。 ◆各学年が町探検・校外学習などで地域の「人、もの、こと」と関わる学習を積極的に行うことで地域のよさにふれ、感じることもできた。まとめの活動や地域のよさを広げるための発信活動を工夫することで、より地域への愛着を深めていきたい。また、各学年の取組を引き継ぎ、蓄積したり、今年度の振り返りをもとに新年度の計画を話し合ったりしていくことで、職員間で情報共有を図り、全学年を通して子どもたちの学びを深めていくことができるようにしたい。 ◆各指導部の施策について、常にグランドデザインと照らし合わせて計画立案及び提案・協議することを意識付けたい。そうすることで、学校教育目標の具現化に向かう中で、職員の参画意識と協働性、達成感などを高めたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
9 職員研修	(13) 授業改善・研修の充実	必要感のある課題設定と主体的な学び 校内研修の充実(実技研とOJT) 学び合いのある授業の工夫(学習リーダーの活用) 見方・考え方の明確化	3	3
10 ふるさとキャリア教育	(14) 「人、もの、こと」との積極的なかわり	町探検 各施設との交流 親子でチャレンジ体験の日(9月) ふるさと学習の日(祭典) 地域との関わり	3	4
11 教職員の学校経営参画	(15) 明確な経営方針・施策の提示	各指導部の方針や重点施策の提示 各指導部の提案の共通理解と実践	3	3
	(16) 特色ある教育課程の編成と実施	授業時数の確保と計画的な実施 読み聞かせタイムの工夫(昼実施とボランティアの活用)	3	3

【評価指標9】職員研修 【評価指標10】ふるさとキャリア教育 【評価指標11】教職員の学校経営参画

【9・10・11のデータ】 ※上段:前期 下段:後期 表中の数値は%(端数処理の関係で100%丁度にならない場合があります)

質問事項		4	3	2	1	0
児童	【評価指標9】 授業のとき自分の考えや感想を発表して伝えあったり、学級のみんなと学びあったりすることで、考える力や発表する力がついたと思いますか。	66	23	9	2	0
	【評価指標10】 かがやきプロジェクトやボランティア活動などをおして、地いきのことを考えたり、地いきのためにできることをしようという気持ちになったと思いますか。	68	25	4	2	2

質問事項		4	3	2	1	0
保護者	【評価指標9】 授業で子どもたちが考えを発表したり話し合ったり、集会等で発表したりすることで、子どもたちは考える力や発表する力が付いてきていると思いますか。	43	52	4	0	0
	【評価指標10】 地域に出て「人・もの・こと」から学ぶ学習、地域に元気と笑顔を届ける交流活動、体験活動、ボランティアなどは、ふるさとへの理解や関心を深め、地域の一人としての意識を育てるのに役立っていると思いますか。	57	37	7	0	0

質問事項		4	3	2	1	0
職員	【評価指標9】 必要感のある課題設定と主体的な学び 校内研修の充実(実技研とOJT) 学び合いのある授業の工夫(学習リーダーの活用) 見方・考え方の明確化	23	54	23	0	0
	【評価指標10】 町探検 各施設との交流 親子でチャレンジ体験の日(9月) ふるさと学習の日(祭典) 地域との関わり	23	77	0	0	0
	【評価指標11】 各指導部の方針や重点施策の提示 各指導部の提案の共通理解と	23	77	0	0	0
	【評価指標11】 授業時数の確保と計画的な実施 読み聞かせタイムの工夫(昼実施とボランティアの活用)	31	69	0	0	0
		15	85	0	0	0

イ 学校運営の状況

Ⅶ 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が保護者や地域に浸透し、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	おおむね良好	良好	・地域や保護者の力を活用しながら職員の働き方改革を進めていこうとする姿勢が感じられる。 ・地域人材の活用は、児童が楽しんでいるので、続けてほしい。 ・架け橋プログラムの充実を目指す中で、今年度は保育園との交流も増えた。保小間の職員の連携も深まりを見せた。今後とも保小のスムーズな接続のための取組を継続してほしい。
	年度	良好	良好	・150周年ということもあり、たくさんの保護者や地域の方々の各種行事への参加が見られ、学校の活動が活性化されていた。 ・保・小・中の連携についての意識を更に高めるとともに、工夫して進めてほしい。そうすることで、子どもたちのよりよい成長につなげてほしい。 ・保・小・中の連携は、少子高齢化の地域を盛り上げることにもつながるので大切にしたい。
自己評価の概要と学校の改善策		【前期(一年度)】 ◆作成ソフトの不具合もあり、HPの更新が遅れることがあった。今後は業者に依頼することにした。 ◆今年から町内掲示板にポスターを掲示し、各行事の詳細についての情報発信をした。PTA町内担当の活用が諮られると同時に、学校報と共に、学校の取組について広く周知することができたので継続していく。 ◆学校報に毎号「応援ボランティア大募集」掲載し、地域の人材活用を図った結果、学校行事への参加率が若干高くなった。地域コーディネーターに助言をもらいながら内容を工夫し継続する。 ◆小・中の連携は、教頭・教務主任同士が密に連絡を取り合い、奉仕活動などがより充実した形で行われた。保・小連携は、架け橋プログラムの更なる充実を目指して、保育園児の小学校体験、小学校職員の園訪問(研究会を含む)などを新たに行った。職員の負担増にならない配慮をしながら、各連携の更なる充実を図りたい。		
		【年度(一次年度)】 ◆今年度始めた学校報や町内掲示板活用の取組は、情報発信及び地域人材の活用に一定の効果があったので次年度も継続したい。読み聞かせボランティアについては、更に増えるよう新たな手立てを講じたい。 ◆小・中連携においては、担当同士が密に連絡を取り合うことで、互いの学校事情を理解したよりよい取組につながる。連携意識を高めるためにも、4月の小・中連携部会を再開させたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
12 情報の受発信	(17) 定期的な情報の受発信	ホームページの定期的な更新 学校報・学年だより 校内掲示の工夫 タイムリーな情報発信 全町内掲示板への行事ポスター掲示	3	4
13 地域の教育力の活用	(18) 地域人材の活用	地域コーディネーターの活用 行事や授業への協力要請(学校報、各町内 ポスター掲示等による地域ボランティアの募集) 保・小・中連携の充実	4	4

【評価指標12】情報の受発信

【評価指標13】地域の教育力の活用

【12・13のデータ】 ※上段:前期 下段:後期 表中の数値は%(端数処理の関係で100%丁度にならない場合があります)

	質問事項	4	3	2	1	0
児童	【評価指標13】 学校行事、体験活動、クラブ、校外学習など、地いきの人とかかわり、教えてもらったり、いっしょに活動したりするのは楽しかったですか。	82	16	0	2	0
		85	13	2	0	0

	質問事項	4	3	2	1	0
保護者	【評価指標12】 学校は、教育方針や活動、子どもたちの様子を、様々な方法(PTA、学校報、学年だより、新聞やテレビ、ホームページなど)で保護者に伝え、保護者と連携して教育を行っていると思いますか。	41	52	2	2	2
		64	33	2	0	0
	【評価指標13】 学校は、保育園や中学校と連携し、地域の方々や施設と協力しながら教育活動を行っていると思いますか。	59	37	2	0	2
		64	29	2	0	4

	質問事項	4	3	2	1	0
職員	【評価指標12】 ホームページの定期的な更新 学校報・学年だより 校内掲示の工夫 タイムリーな情報発信 全町内掲示板への行事ポスター掲示	31	62	8	0	0
		54	46	0	0	0
	【評価指標13】 地域コーディネーターの活用 行事や授業への協力要請(学校報、各町内 ポスター掲示等による地域ボランティアの募集) 保・小・中連携の充実	38	62	0	0	0
		62	38	0	0	0